

実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)

◆課題(研究領域):「共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践」

◆研究テーマ:「高齢者施設等の地域への社会的・福祉的防災復興資源としての役割に関する研究」

研究期間:H25.10~H27.9

委託費総額:9,975千円

<研究代表者>

大塚毅彦:明石工業高等専門学校建築学科教授



<専門分野>

建築計画・都市計画

<Webページ>

<http://www.akashi.ac.jp/>

<研究目的・概要>

災害発生時における災害時要援護者の避難所について、平常時の福祉・生活関連、居住関連施設整備との在り方との関係性に着目



新たな避難所整備の在り方に向けての研究を行う。

被災地での先進事例調査を実施

1. 2次避難所・福祉避難所の実態調査
2. あしやきらくえん4施設(尼崎、芦屋、生野、けま)の地域貢献への実態調査
3. みなし仮設住宅の役割と政策課題調査、
4. ハード・ソフト面からの地域防災資源の調査と評価、
5. 現地住民等からのヒアリング、討論等

<研究計画の特徴>

- ・ 防災・福祉資源の解明
地域社会を構成している種々の施設(福祉関連施設、保育園、旅館、社寺等)が広義の防災資源であることを各被災地調査を通じて明らかにしていく。
- ・ 包括的・分野横断的研究
阪神淡路大震災から東日本大震災を踏まえた実務者と研究者との包括的・分野横断的研究は既存の研究には見られない内容である。

<目標とする研究成果>

- 災害時の被災弱者の救済装置となる福祉・生活環境施設等の充実は日常の安全・福祉資源としての役割を果たすと同時に、災害時の防災資源＝「防災都市計画」であることを実証的に解明する
- 福祉避難所等の実態と備えるべき条件を明らかにすることで、今後の全国的な2次・福祉避難所のあり方に大きな示唆を与える
- 民間賃貸住宅の果たしている避難所的役割を評価し、今後の居住政策の展望について検討してすることで、不動産業の果たすべき社会的・福祉的課題について示唆を与える。